

(様式1) 実践事例

学校名	桑折町立伊達崎小学校	校長名	坂本貴洋		
住所	伊達郡桑折町大字下郡字細町1番地	児童生徒数	83名	学級数	6
TEL	024-582-5870	ホームページアドレス	http://www.kori.gr.fks.ed.jp		

少人数のよさを生かした学習指導の推進
～教師の指導力の向上を目指して～

1 少人数指導の計画等

少人数指導を充実させるためにブラッシュアップ授業研修を一人年5回計画的に実施し、少人数指導を生かした授業改善と教師の指導力向上を図る。

◇ 「ブラッシュアップ授業研修～伊達崎スタイル～」…授業づくりの5つの視点

① 導入の工夫と本時のまとめ

- ・ 児童の興味関心を高める導入の工夫
- ・ 終末では、学習課題に即したまとめを確実に

② 発問と板書の工夫

- ・ 発問を工夫し、児童から多くの考えや意見を引き出す
- ・ 一目で授業の流れが分かるような板書の工夫

③ 電子黒板の活用

- ・ 電子黒板を児童の思考と、習熟のツールとして活用

④ 言語活動の重視

- ・ 話す、聞く、書く、読む活動を柔軟に設定し、児童の言語能力を高める

⑤ 定着のための工夫

- ・ リズムとテンポを大切にし、上位の児童を足踏みさせない工夫
- ・ 終末10分間を効果的に活用

2 実践の概要

◇ 5年 社会科「自動車をつくる工業」

(①導入の工夫と本時のまとめ)

自動車工業を身近に考えさせるために、自家用車の部品や仕組み等から入り、学習への興味関心を高めることができた。この導入の工夫により身近なこととして捉えることができたため、子どもたちの発表もより活発になった。また、「つぶやき」を上手に活用して、全体で自動車の部品の製造方法を話し合わせるなど、授業を教師がコーディネートすることができた。グラフを読み取らせる部分では、ゆさぶりの発問を投げかけるなど、子どもの探求心を刺激し、まとめにつなげることができた。



◇ 事後の取扱い

授業を参観した際には、必ずその日のうちに「授業参観チェックシート」をもとに、校長・教頭・授業者で話し合いを行うようにしている。自由に意見交換ができるような雰囲気作りに努めている。

3 実践の成果と課題

○ 学校運営ビジョンや学力向上グランドデザイン、目標管理制度とリンクさせることにより、担任が自分の授業を見直すよききっかけとなっている。

○ 一人年間5回行うことによって、事後の話し合いで出された反省点を次の授業へ生かせるようになり、スパイラル型で授業の改善及び授業力の向上に結びついている。

● 教科を絞っての研修ではないため、専門的な部分でのアドバイス等については不十分になってしまいがちである。

● 他の担任も参観できるような研修スタイルにすることにより、お互いに切磋琢磨できるようにしていきたい。